

めぐみイエス・キリスト教会

2025年3月2日(日)第主日礼拝

午前10時より

週報「通算第748号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【交読文】 No.52 ルカの福音書1章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル新曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書8章40節～48節 (p. 129下段右)

【礼拝説教】 《長血をわずらった女性》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. マルコの福音書における平行記事から

※マルコの福音書5章21節～34節「詳しい叙述」 (新約p.74下段)

5:21 イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。

5:22 すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、

5:23 こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」

5:24 そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。すると大勢の群衆が

イエスについて来て、イエスに押し迫った。

5:25 そこに、十二年の間、長血をわずらっている女の人があった。

5:26 彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

5:27 彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。

5:28 「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

5:29 すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒やされたことをからだに感じた。

5:30 イエスも自分のうちから力が出て行ったことにすぐ気がつき群衆の中で振り向いて言われた。「だれが私の衣にさわったのですか。」

5:31 すると弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれが私にさわったのか』とおっしゃるのですか。」

5:32 しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

5:33 彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

5:34 イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

●ポイント2. 主イエスを信じ、信頼することとは？

※ヘブル人への手紙11章1節および6節「信仰とは」(新約p.451下段)

11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです。

◎先週のメッセージ【レギオンからの救い】

《続きとなります。さて、マタイの福音書では、不思議なことに、悪霊に憑かれた人の人数が二人になっています。尾山先生は、実際には二人であったが、救われたのはその内の一人で、それ故、マルコとルカは、救われた人だけに焦点を当てて書き記した、と言われていています。「私たちが追い出されるのでしたら、豚の群れの中に送って下さい。」

主イエスはそれを許され、悪霊どもはその人から出て二千匹の豚の群れにはいり、豚の群れは湖へなだれ込み、溺れて死にました。

この出来事を見た豚飼いは、逃げ出して、このことを伝えます。すると、ゲラサの町から大勢の人々がやって来ます。そして主イエスの足もとに、悪霊の去った男が服を着て正気に返って座っているのを見るのです。そこへ、その町の長老たちが主イエスの御元にやって来て、「自分たちの所から出て行ってほしい」と、願ったとあります。

カペナウムの向こう岸のゲラサの町の大きな問題は、悪霊に取り憑かれ、墓場で暮らす男の問題でした。なぜなら、彼によって、誰も夜から夜明けまでは、街道を通り抜けることが出来なかったからです。

その問題を、主イエスが解決して下さったにもかかわらず、彼らの心は、溺れ死んだ二千匹の豚にありました。主イエスが恵みを持って来て下さったにもかかわらず、彼らは主イエスを拒んだのです。

このことは、病いがいやされ、また問題が解決されたとしても、主イエスを必要としない人たちが存在することを私たちに教えています。

いやされたから、また解放されたから、その人が救われるとは限らないのです。救われた男は、主イエスとお供をしたいとしきりに願いましたが、主は彼を帰されます。「あなたの家に帰って、神があなたにして下さったことをすべて話して聞かせなさい。」まずは、ガラサの町に住んでいる自分の家族のもとに帰って証しをなささい、ということです。そして、家族と共に神を喜び誉め讃えなさい、と言うことです。》

◎お知らせ

※次回は2025年3月9日午前10時より、通常通り行ないます。